

令和3年4月27日

北陸地方整備局

## 両津港南埠頭におけるにぎわい拠点形成のための 基盤整備検討調査を支援します

～令和3年度 第1回官民連携基盤整備推進調査費の配分を実施～

国土交通省は、「官民連携基盤整備推進調査費」の令和3年度 第1回配分として、北陸地方整備局管内から下記に示すとおり、1件の調査案件の支援を決定しましたのでお知らせします。（事業概要は別添参照）

### 北陸地方整備局管内 実施事業

調査名	実施主体 ／対象地域	概要	実施計画額(千円)	
			事業費	国費
1 両津港南埠頭における にぎわい拠点形成のた めの基盤整備検討調査	新潟県、佐渡市 ／新潟県佐渡市	佐渡島における古くからの玄関口である新潟県佐渡市の両津港周辺地域において、佐渡島の豊富な観光資源を活用した周遊滞在型観光を推進できるよう、みなとを核としたまちづくりや地域振興の取組が進められている当地をにぎわい創出の拠点とするため、民間事業者による商業施設建設等と合わせて、緑地や埠頭内道路、駐車場の整備を計画しており、それら施設の整備に係る需要予測や概略設計等を行う。	20,000	10,000
計	1件		20,000	10,000

#### ◆添付資料

別添 : 令和3年度官民連携基盤整備推進調査費  
第1回実施概要（北陸地方整備局管内）

◆国土交通省（本省）プレスリリース資料は以下のURLをご覧ください。  
[https://www.mlit.go.jp/report/press/kokudoseisaku09\\_hh\\_000111.html](https://www.mlit.go.jp/report/press/kokudoseisaku09_hh_000111.html)

#### 【問合せ先】

北陸地方整備局

企画部広域計画課長

川尻 克巳（内線3211）

TEL：025-370-6687

FAX：025-280-8835

#### 【同時発表記者クラブ】

新潟県政記者クラブ、新潟県政記者クラブ、富山県政記者クラブ、石川県政記者クラブ、福井県政記者クラブ、その他専門誌

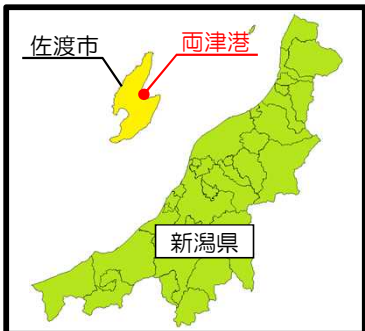
# 両津港南埠頭におけるにぎわい拠点形成のための基盤整備検討調査

別添

## 地域の特徴等

- 日本海に浮かぶ佐渡島に位置する新潟県佐渡市は、世界農業遺産や日本ジオパークに認定されており、他地域と比較しても類を見ない豊富な観光資源を有する。しかしながら離島という地理的条件のため過疎化が進行しており、観光産業振興等による雇用の確保など、定住人口を維持する施策が求められている。
- 佐渡市及び新潟県は「佐渡島の金山」の令和5年度世界文化遺産登録を目指しており、世界文化遺産登録後の観光客の増加を見据え、こうした豊富な観光資源を活用した周遊滞在型観光を推進できるよう、官民が連携しての観光メニューの開発や魅力発信を企図しているところ。
- 一方、当市に位置する両津港は、古くから佐渡島の玄関口として栄えてきた港であり、佐渡島を出入する交通や貨物のそれぞれ9割を占めるなど、佐渡の物流・人流の拠点となっている。さらに平成27年には両津港周辺のにぎわいエリアが「みなとオアシス佐渡両津」に登録され、みなとを核としたまちづくりや地域振興の取組が進められていることから、当地のにぎわい創出の拠点を整備する気運が高まっている。

【調査箇所：新潟県佐渡市】



### (1) 社会的背景・状況の変化等（きっかけ）

- ・令和元年12月、トキめき佐渡・にいがた観光圏整備計画策定(改定)
- ・令和2年2月、両津港港湾計画を変更
- ・令和2年6月 南埠頭を核とする賑わい拠点形成のための検討会が発足（佐渡市、県、観光事業者、商業ビル所有者等が参画）

### (2) 民間事業者の活動・新たな投資・予定

- ・商業施設運営会社等が、造成されたふ頭用地に商業ビルを移転し、にぎわい空間の拠点となるべき機能をそなえた商業施設を建設（令和8年～）
- ・（一社）佐渡観光交流機構が鬼太鼓を活用した滞在プログラムを開発（令和2年～）

密接な  
関連性

### (3) 基盤整備の必要性（現状の課題等）

- ・旅客、貨物動線の錯綜
- ・両津港周辺の駐車場問題（送迎用の駐車場不足、周辺商店街の駐車場不足）
- ・緑地の安全施設等の不足

### (4) 【調査内容】

- ①旅客、貨物動線の検討【県発注】
- ②ふ頭内道路概略設計【県発注】
- ③緑地等の利活用検討・概略設計【県発注】
- ④駐車場需要予測【市発注】

### (5) 民間の活動と一体的に整備する効果

- ・両津港のにぎわい拠点形成により交流人口、観光客が増加



イベント実施状況